

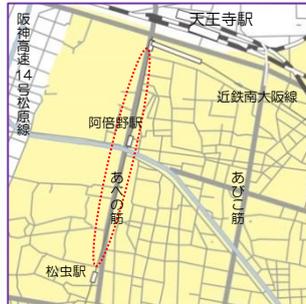
# 阿倍野区の都市景観資源紹介



# 阿倍野区の都市景観資源

大阪市では、阿倍野区の都市景観資源の発掘のため、「わがまち自慢の景観」を募集し、大阪市都市景観委員会の審議を経て、平成28年6月10日に33件を都市景観資源に登録しました。

## 1. 路面電車の走るあべの筋



### ◆所在地

阿倍野筋1丁目～5丁目

### ◆概要

あべの筋は、阿倍野区と住吉区を南北に縦断する道路で、その中でも阿倍野筋1丁目のあべの近鉄前交差点から約1.2kmの区間は、阪堺電気軌道上町線が設置されている。歴史的には、明治18年(1885年)に現在の南海電気鉄道の前身である阪堺鉄道が難波～大和川間に開通し、大阪市が発足した明治22年(1889年)には、天王寺駅が開設。明治33年

(1900年)には天王寺西門前～東天下茶屋間に、現在の「チンチン電車」阪堺電気軌道の前身となる、大阪馬車鉄道が開通し、レールの上を馬車が走った。その後、人口の都市集中化とともに、利用者が急増し、馬車鉄道では電化が検討され、明治42年(1909年)に南海電鉄(昭和55年(1980年)南海から分離)と合併し、翌年から電車に切り替えられた。交通量の増加によりその多くが廃止されている中、阿倍野筋の中でもこの区間は今でも「チンチン電車」が残っており、駅前の開発が進む中でのどかさを楽しめるひとときわ市民に親しまれた景観となっている。

## 2. あべのハルカス



### ◆所在地

阿倍野筋1丁目1番43号

### ◆概要

「天王寺・あべの」ターミナルに直結する日本一の超高層複合ビル。建物デザインにおいては、階段状のセットバックにより生まれた屋上への緑化や、全面ガラス張りの外観等によるランドマーク性と周辺地域との調和の両立や、西面の一筋の折り目による高さ300mの強調などの特長を持つ。駅、百貨店、美術館、ホテル、展望台等複数の都市機能が集積した『立体都市』である。

平成26年(2014年)3月全面開業、地上60階、地下5階、高さ300m、延床面積約306,000㎡。



### 3. ふうぶ Hoop



#### ◆所在地

阿倍野筋 1 丁目 2 番 30 号

#### ◆概要

都会的なオープンスペースと、昼と夜とで表情が変わる斬新な形状の建造物が特徴的な都市商業施設である。商業施設の賑わいを醸しだすため、建物中心部外壁はガラススクリーンで構成され、視認性の高い構造となっている。建物の内と外の境界線は存在せず、行き交う人々は何かに束縛されるということなく自由に空間を楽しむことができる。

平成 12 年 (2000 年) 9 月開業、地上 6 階、高さ約 30m、延床面積約 20,000 m<sup>2</sup>。

### 4. あべのほどうきょう 阿倍野歩道橋



#### ◆所在地

阿倍野筋 1 丁目 5 番

#### ◆概要

本歩道橋は、阿倍野再開発事業の一環として架け替えが計画され、平成 18~19 年度 (2006~7 年度) にかけて「阿倍野歩道橋デザイン・設計コンペ」を実施し、「大阪の南の玄関口に相応しいランドマーク的な位置づけ」、「開放的な歩行者空間の創出」、「バリアフリー化を推進し、賑わいある通行路を確保」などの条件提示のもとで公募した中から、『阿倍野 (abeno) の「a」からまちがはじまる』というテーマでデザインされた作品を最優秀作品として決定し、そのデザインをもとに設計、施工が行われ、平成 25 年 4 月に全面通行を開始している。

様々に高さを変える屋根や構造体による変化に富んだ空間と、道路にせり出し天王寺公園を望む展望スペースなどにより、歩く・話す・眺める・待ち合わせるなど、多様な活動の起点となる新しいタイプの歩道橋が誕生した。本歩道橋は平成 25 年度 (2013 年度) に土木学会関西支部 技術賞、平成 26 年度 (2014 年度) にグッドデザイン賞を受賞している。